



○ 感性の輪

モレアの花(花言葉は豊かな感性)⇒



2年ほど前に講話を依頼されたことがある掛合中学校の生徒さんから、主催イベント招待の直筆のお手紙をもらい、出かけてきました。

1年生から活動が続け深めてきた総合的な学習の時間の集大成となる「掛合町を興す」をテーマにしたそのイベントは、想像以上に規模が大きく盛況で、訪れた誰しもが笑顔になるものでした。何より3年間の様々な活動を通してつながりができた多くの方々が、生徒の成長と夢の実現の応援団となって協力し、また協力することで逆に元気や勇気をもらっている姿に、地域連携のめざすところを見た気がしました。

講話をした時に1年生だった生徒のみなさんは、3年生となっていました。自信とやる気に満ちたその姿からは、人間的な成長が見て取れました。今は生徒会の主力としても活動。1年生の頃から学年部の先生らと町をより良く活気あるものにしたいという思いを共有し、それを形にするため師弟同行で頑張ってきた経験は、人生の糧となるはずです。

1年時に私が講話をした際、キーワードにしたのが「感性」でした。その頃の校長室だよりには次のように書いています[一部改変]。

「謙虚さがなくなっていくのは、いろんなことが当たり前になり、慢心してしまうことから始まると考えます。何事にも楽な道や近道ばかりを追い求めていると、“ありがたさ”を忘れ、“有り難い”のに“有るのが当たり前”だから、「感謝」の気持ちが薄らいでいきます。そうして「感性」が衰えていくと、美しいものを美しいと感じられなくなります。人を傷つけても感じなくなり、気遣いもしなくなります。そんな自分に嫌気がさしていきませんが、そのイライラを人にぶつけたり、人のせいにしたりします。物事を追求したりもしなくなります。向上心に乏しい自分の価値観がなによりも優先するようになり、その独善的な価値観を人に押しつけるようになってたりもします。感性が乏しくなると、危険が身に迫っていても、それを察知する力も失われます。やがて人が離れていき、自分が不幸になっていきます。…」

掛合中学校の生徒会のスローガンに「感性の輪」という言葉が入っています。「日常生活、学校生活では様々なことが起こるが、その一つ一つの物事をどのような視点で見るかが大切である。視点を変えることを意識して生活することで感性が豊かになり、感性の輪が広がっていく。それが個人や集団の可能性を広げていくことにもなる。自分の良さを自覚し、多様な他者を価値ある存在として尊重するようになる。それは、協働していく集団、切磋琢磨する集団をつくることにもつながっていく。…」

それが「感性の輪」をスローガンに入れることにした理由と聞き、胸が熱くなりました。

届いた直筆のお礼状には「私たちの探究活動は終わりません。私たちの故郷である掛合町がこの先もずっと続いていくために私たちは探究を進めます」と結ばれていました。